

No.	頁	章	項目		意見内容	回答
1	p.4	第2章	1. 近年の社会環境の変化	⑥Well-being（幸福感）を重視する 価値観への転換	第2章の1. 近年の社会環境の変化の項は、“計画策定の背景”という位置づけであると認識しています。①～⑤及び⑦については多くの市民が納得する内容であると思われますが、⑥の幸福感については唐突感があります。近年、都会の便利さより田舎の大自然を優先し、移住する人はいます が少数派であり、それがムーブメントになっているとは言い難いのではない でしょうか。 人々が持つ価値観に多様性が出でいることは理解できますが、これを背景 として、基本理念や将来像に“幸福感”を設定することは飛躍しすぎでは ないでしょうか。	本計画で幸福感（Well-Being）を取り上げたのは、経済的な指標に加えて 心の豊かさや暮らしの質を政策に取り込む国際的・国内的な潮流を踏まえ るとともに、本市の市民意識調査でも将来の暮らしに関する不安や将来の 幸福感の見通しが示されているためです。これらの状況を背景に、暮らし の利便性や安心、地域への愛着といった暮らしの質を総合的に向上させる 観点からWell-Beingを位置づけています。
2	p.4		1. 近年の社会環境の変化	⑦外国人住民の増加と多文化共生・ 安全安心への対応	子ども達の幼児・義務教育課程からの外国人に対する差別意識解消に関す る実践的な提案	基本計画及び実施計画の検討において参考とさせていただきます。
3	p.6		2. 大田市の現状	④暮らしを支える生活環境の現状	現状把握の為、市民アンケートは取らないのか。	令和7年9月に、市民の皆さまの生活実態に関する意識、多様化する市民 ニーズ、行政加課題把握するため、「市民アンケート」を実施しました。

No.	頁	章	項目		意見内容	回答
4	p. 8	第2章	3. これからのまちづくりに求められること	⑥多様な主体による共創と地域の支え合いの仕組みづくり	暮らしを支える仕組みとして“自助・共助・公助の役割”という記述があります。自助という言葉を使うと、暮らしやすい地域にならないのは、行政から“市民の努力不足”と言われているように感じます（地域づくりに関して自助という言葉はキツイ感じがします）。むしろ、地域づくりで重要なことは共助ではないでしょうか。自分たちの地域は自分たちで維持するという意識の下、共助で頑張ることが最も重要と考えます。	計画で示す自助・共助・公助は、市民に責任を押し付けるものではなく、それぞれの日々の暮らしへの備え（自助）、地域の支え合い（共助）、そして行政による支援・環境整備（公助）を相互に補完する考え方です。これらをバランスよく組み合わせることにより、多様な主体が連携して持続可能な地域をつくることを目指すものです。
5					また、「関係人口」の記述があります。ページ下部に用語解説がありますが、怪しげな定義に感じます。行政はこれまで、同じように「交流人口」とか「ふるさと人口」という言葉を使っていますが効果はあったのでしょうか。定住人口の減少の穴埋めとして便利に使っていませんか。これまで実施した交流人口推進の成果の検証が必要ではないでしょうか。	関係人口の定義については総務省の定義を参考にしており、移住した定住人口でもなく一時的な観光客でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々を指す考え方を採用しています。関係人口や二地域居住は、人口減少・高齢化による地域の担い手不足に対応するための一つの手段であり、定住促進施策と併せて地域力の強化を図る為の重要な取り組みであると考えます。
6	p. 9	第3章	1. 基本理念		幸福度調査の実施を！ 基本理念 ここがしあわせ ここでしあわせ 幸せになるために「ここ」をより良くするための計画と思いますが、裏返せば「幸福度」は十分ではないでしょう。 147の国・地域の中で、日本は61位とG7中最下位ですね。 今後、計画を進めるうえで「幸福度調査」で計画の検証を進めることも良いのではと思います。方法は、モニター制でも市民抽出でもいいですが、毎年1回実施して、傾向を確認してみるのもいいのでは。 波根町が健康寿命延伸プロジェクトで実施した時は、「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として記入する簡単なものでした。結果、社会活動に参加し、人や地域とつながっている人ほど、健康意識も高く、幸福度が高い傾向がみられました。 参考になればと思います。	令和7年9月に、市民の皆さまの大田市での生活に対する幸福度・満足度、生活の中での実感等について、地域のWell-Being（地域幸福度）の向上を図る指標とするための「Well-Beingアンケート」を実施しました。
7	pp. 9～10		1. 基本理念、2. 将来像		基本理念、将来像について「しあわせ＝幸福感」を用いています。「幸せ」と「仕合せ」の語呂合わせは面白いとは思いますが、8年後の到達点として「幸せを感じることを」設定していることには疑問を感じます。「幸せ」はあまりにも漠然としており、また、人それぞれで感じ方も違います。定量評価にも適していないと思いますが・・・。	No6に記載のアンケートの実施により、定量評価を行います。

No.	頁	章	項目		意見内容	回答
8	p.12	第3章	4. まちづくりの基本方針	I. 仕事となりわいで拓く	基本方針の中に「三瓶そばなどの地域資源を活かした」の記述があります。三瓶そばは日本遺産の構成要素にもなっており、以前、市主催の蕎麦打ち教室がありました。蕎麦打ちを習得し、三瓶そばを打とうと思いましたが三瓶そばの蕎麦粉が市販されていません。市に問い合わせると市販するほどの生産量がないとのこと。三瓶そばを地域資源として謳うのであれば、市民が三瓶そばの蕎麦粉をどこでも買うことができ、いつでも打てる程の生産量を増産させる施策を望みます。	基本計画及び実施計画の検討において参考とさせていただきます。
9					8年後のまちのイメージの3ポツ目に「市内の道の駅等で販売されとともに、ふるさと納税の返礼品として…」とありますが、もう少しスケールの大きな記述になりませんか。大田市の商品が市外の道の駅を席卷しているとか、ふるさと納税の返礼品をファーストコンタクトとし、これを契機にネット販売で爆売れの状況になっているとか、夢のある8年後であって欲しいと願っています。	大田の地域資源を活かした新商品の開発と販路拡大については本計画においても重要な方針ですが、まずは事業者が無理なく持続可能に事業を継続することが最優先です。そのうえで、道の駅をはじめとする市内店舗への来訪やふるさと納税寄附などをきっかけに商品を手にしていただき、商品そのものあるいは事業者や当市のファンとなっていいただくことが大切であると考えています。また、既にECサイトの活用などにより販路拡大に取り組まれている事業者もおられますが、そのような積極的な取り組みについては、引き続き伴走支援を行ってまいります。
10	p.17		4. まちづくりの基本方針	VI. ふるさとを明日へとつなぐ	基本方針の中に「自律的に図る地域経営の力を高めます」との記述があります。周辺地域では人口減少、高齢化が著しく進み、地域を担う人材の確保が難しくなっています。人材育成のためには研修が必要と思いますが、近年、地域づくりに関する研修が開催されていないと感じています。市は「地域力向上プログラム事業」を実施していますが、周辺地域ではエントリーするだけの地域力すらありません。その財源を人材育成に振り替えるべきと感じています。	基本計画及び実施計画の検討において参考とさせていただきます。
11					基本方針の6ポツ目に「行政サービスを提供できるよう人材の確保・育成を図る」との記述があります。市役所の状況を見ると入庁した職員が早期に退職する状況や、不適切な事務処理が散見される等、人事システムが困難な状況にあるように見えます。中長期を見据えた人材育成計画の策定や、保健師の育成に市でも実施している「プリセプター制度」や、民間企業で実施されている「メンター制度」の導入など職員の定着を図る仕組みが必要ではないでしょうか。	基本計画及び実施計画の検討において参考とさせていただきます。